

中国ダイコン (アスナ科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
					タネまき	収穫					

ダイコンは、東洋的な野菜の代表といえます。西洋にもハツカダイコンのようなものがありますが、東洋のように大きなダイコンはなく、使い方も限られているようです。

中国ダイコンは、日本のダイコンとは系統が違うので、形や色、味などが少し異なります。あまり大きなものはありませんが、カ

ブのように丸いもの、色は緑や赤、外皮と中の色が違うものなど、バラエティーに富んでいます。また、味は甘いものが多く、肉質はデンプン質で、ばさばさした食感があります。貯蔵性があるのも特徴です。

品 種

長いもの、短いもの、丸いものなどのさまざまな種類がありますが、基本的なのは次の品種です。

あおながだいこん
青長大根 (根は細長く、地上に長く出た部分は外皮、内部ともに緑色)

べにまるだいこん
紅丸大根 (根はカブのように丸く、外皮は鮮紅色、内部は純白色)

べにしんだいこん
紅心大根 (根は丸形で、内部は桃紅色。外皮は土から出た部分は濃緑色、地下部は白色)

栽培ポイント

普通のダイコンのできるところなら、どこでもできます。早まきするとウイルス病にかかりやすいので、タネまきは、8月下旬～9月中旬ぐらいにします。

作り方は日本のダイコンと同じです。土を深く掘り起こし、土のかたまりがないようにていねいに耕すこと、タネの下に肥料を施さないこと、土に堆肥類をまぜないこと、などに注意します。

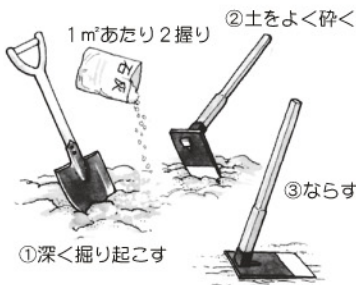
収穫は、タネをまいてから60日～70日です。

栄 養

ビタミン類を含みますが、根部より葉に多く、葉には特にカロチンが豊富です。

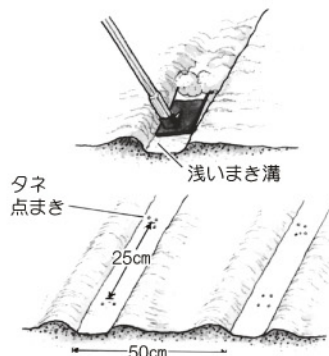
1 土 作 り

タネまきの1週間前に、畑全面に苦土石灰をまき、土の深さ30cm以上に掘り起こしてまぜながら、土のかたまりがないようによく耕す。



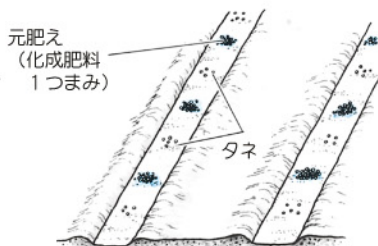
2 畝 作 り

土を平らにならし、くわ幅の浅いまき溝 (3cmくらい) を切ってタネをまく。タネは25cm間隔で点まきとし、1カ所に4～5粒ずつまく。



3 元肥え・覆山

タネをまいた株間に元肥えを施し、覆土する。元肥えは、野菜類のようにタネの下には入れない。タネの下に肥料を施すと、股ダイコンになる。



4 間 引 き

発芽後、間引きを2～3回行い、追肥、土寄せをする。



○ 1回目の間引き
2枚目の本葉が伸び始めたころ3本立にする

○ 2回目の間引き
本葉3～4枚のころ2本立にする



○ 3回目の間引き
本葉5～6枚で1本立にする

5 追肥・土寄せ

1本立にしたときと、その2週間後ぐらいに、1㎡あたり軽く1～2握り程度の化成肥料は畝の肩に施し、軽く土寄せをする。



主な病害虫

- ◆病気 ウイルス病
- ◆害虫 アブラムシ